

湯河原ロータリークラブ



WEEKLY REPORT

奉仕を通じて平和を

第 2459回 例会
平成24年9月7日(金)
天候 晴れ
合唱 君が代
それこそロータリー
四つのテスト

会長 山本 明峰

幹事 石倉 幸久

事務所 神奈川県足柄下郡湯河原町宮上 566 湯河原温泉観光協会内
TEL 0465(64)1234 FAX 0465(63)1716

例会場 静岡県熱海市泉 107 ニューウェルシティ湯河原

TEL 0465(63)3721 FAX 0465(63)6401

例会日 毎週金曜日 12:30~13:30

会長挨拶

副会長 佐藤 泰文 (会長欠席の為)

本日は、山本明峰 会長の父君城願寺先代住職の本葬儀で会長は欠席いたします。会長に代わり私、副会長の佐藤 泰文が挨拶いたします。

お釈迦様の遺言のひとつです。自分を島とします。自分を抛り所とし、他人を抛り所としてはならない。教を抛り所にし、他のものを抛り所としてはならない。頼るべきものは、他ならぬ自分自身であり、お釈迦様の説いた教え(法)であります。教えは師匠 弟子だのと言うことではない。自覚して悟りに向かって修行するのは他人ではなく、自分であります。教えは永遠の真実なのであります。

人生は長くない、いつ死が訪れるか解らない。修行にはげめるうちに精一杯修行しなさいと、お釈迦様は云われました。

限り無い勇氣と決断を促す言葉として最高の指針ではないでしょうか。今の世の中、思いを新たに反省する時ではないでしょうか。

幹事報告

ロータリーの友事務所

1. 「ロータリーの友」英語版 11月中旬発行
1冊 525円(税・送料込み)

米山記念奨学会

1. 申告用領収書の申請について

ガバナー

1. 「職業奉仕月間」卓話者派遣のお知らせ
日 時：平成24年10月26日(金)
卓話者：第2780地区職業奉仕委員長
秦野RC 見澤裕喜 様

報告事項

1. 次週、14日の例会は山もみじの下草刈りです。午前10時に現地に集合して下さい。雨天中止です。尚、お弁当のご用意がありますので、雨天中止の時は、11時30分から12時に観光会館にてお弁当を受け取って下さい。
2. 情報集会を14日午後18時よりホテル城山にて開催致します。会費は5,000円です。

スマイルBOX

入会記念日

神谷一博君 6年(H18.9.8)

出席報告	ゲスト 0名 ビジター 0名		
	会員 25名	欠席 6(0)名	出席率 76.00%
	前回の修正出席率 91.30%		前々回の修正出席率 96.00%

石川 雅雄君

私は偶然、慶應義塾大学のOBが経営をしている銀座七丁目にあるBRBクラブで、明智光秀の子孫に当たる明智憲三郎氏に出会う機会をえました。明智憲三郎氏は、1947年 慶應義塾大学大学院工学研究科卒業 三菱電機(株)入社 現在 (株)第一情報システムズ常務取締役 でご活躍中です。

憲三郎氏は光秀の子(於鶴丸おつるまる)の血筋 [本能寺の変 427年目の真実] を出版

[本能寺の変] の謎

- ①光秀の謀反の動機
- ②織田信長は、あれほど無警戒で本能寺にいたが
- ③なぜ光秀は本能寺の変を、やすやすと成功させたか。
- ④徳川家康の安土城訪問とその後の上洛がなぜあれほど無警戒だったのか。
- ⑤光秀の政権維持策
- ⑥本能寺の変の後、急遽、堺から三河に戻った家康の行動----帰国後直ぐ織田領の甲斐・信濃に侵攻したのに誰からも咎めを受けなかった。
- ⑦豊臣秀吉の「中国大返し」がなぜあれほど成功したか、6月3日の夜 本能寺の変の勃発を知った秀吉は直ちに毛利と和睦し、兵を返すや13日には山崎の合戦で光秀軍を打ち破った。

光秀は、足利尊氏に仕えた大名 土岐頼遠(よりとう)の一族である。土岐一族は百余家に分家し、分家した一族が明智荘に移り、土岐明智を名乗った。三代将軍足利義満の画策によって、土岐氏一族が崩壊した。光秀は土岐氏再興の悲願を背負っていた。光秀は細川藤孝の中間として仕え、その後足利幕府の足軽になった。その後将軍義輝が暗殺され、義昭が後を継いだ力が弱かった。

信長は義昭を担いで上洛し、二重政権になった。三年半後、義昭が追放されると光秀は、信長の家臣となる。

信長は、ライバルの武田信玄の死後、その子勝頼を滅ぼし自分の側近の領地を取り上げ、三人の息子に与え側近の家臣には、夫々遠方の領地へ移していった。

手柄を立てた家臣に論功行賞として与える土地が、だんだん無くなり、中国征服計画もあったが、実現出来なかった。(宣教師ロイス・フロイスの日記にあった、後に秀吉が朝鮮征伐を計画し失敗した。)

信長の重臣は、徳川家康、細川藤孝、明智光秀であった。後に細川藤孝の嫡男 忠興の正室になったのは、明智光秀の娘(玉)(ガラシャ夫人)であった。

さて光秀が陰謀を起こした動機は、信長に「個人的な妬み」や「天下取りの野望」ではなかったか。

(一つ)には、近江、丹波、丹後、大和、摂津の光秀の領地を取り上げられる様子があった。

(二つ)目には、信長が長宗我部 征服の計画があり、これを阻止することになった。光秀と長宗我部の関係は、長宗我部元親の正室は、石谷(いしがい)光正(石谷は土岐一族)の娘であり、

その子 石谷頼辰(よりとき)は、光秀の家臣 斉藤利三(としみつ)の兄である信長と家康は盟友関係にあったが、長篠の合戦で武田勝頼が壊滅的な打撃を受けたので家康の存在が微妙になり、武田氏に内通したという嫌疑を家康の嫡男 信康と正室の築山御前にかけて殺害をした。

その後、勝頼を滅し家康が邪魔になった。信長は、光秀に家康討伐の恩賞として、家康の領地駿河、遠江、三河、を与え、その代り光秀の領地 美濃、尾張、伊勢を召し上げることを考えていた。

しかしこの領地は、土岐氏の先祖伝来の土地であり、光秀が土岐氏の盟友である事を信長は見落としていた。

これは、土岐一族の滅亡に繋がると考えたのです。

これが謀反に至った最大の動機である。

もう一つは、安土城での信長の足蹴り事件です。

信長は、武田を滅ぼした恩賞として、家康を安土城に迎える饗応の準備の時、二人で密室で話をしていた時、信長が光秀を足蹴にした事件です。

一般的には、饗応の仕方が悪いと云って足蹴をしたと云われているが、そうではなく、先にお話をした「長宗我部を攻め滅ぼすと云う信長の決意を知って思いとどまらせようとして、信長の逆鱗にふれ、足蹴にされた」と云う事です。これが謀反の最後の引き金になった。

もう一つは、密室での話は、本能寺で家康を討つ話をしていたのです。

家康を本能寺に誘き出して暗殺を企てるため、信長は家康を少なくして安心させようとしたのです。

光秀も家康も身の危険を感じ既に安土で家康と密約を結んでいたからできたのです。光秀はそれを逆手にとって、信長を襲撃したのです。

①~⑥の謎は、光秀が家康と結託をしていたからである。

⑧つ目の謎の秀吉の中国大返しは、予め毛利の外交僧、安国寺 恵瓊(えけい)を通じ、毛利氏とは和睦の合意が出来ており、光秀が謀反を起こすのを待っていたので、信長の死を聞いて取って返したのである。豊臣秀吉の大軍の大返しが遅れておれば、完全に光秀の天下になった。

歴史は本当に奇なるものである。

秀吉が中国から取って返せたのは、細川藤孝、忠興の父子が光秀を裏切って本能寺の変に加わらなかったのは、光秀が元々細川藤孝の中間をしていたのに、地位が逆転したので、プライドが許さなかった。それで秀吉と密約を交わして、本能寺の変で信長が死んだのをいち早く細川が秀吉に通報したので、秀吉の大軍が、取って返して光秀軍を破ったのである。

この事件は、光秀と家康と細川が密約をして実行したので家康も援軍を送れば秀吉の大軍とぶつかるので、わざと援軍を送らなかったのではないかと、推察出来る。